

ツェッペリン号の欧州・南米大陸初往復飛行郵便

川原 啓一郎

ツェッペリン社は、長距離飛行を商業的に成功させようと、1930年に南米大陸への往復飛行を計画した。同社のツェッペリン号は乗客・乗員67名を乗せ同年5月18日にフリードリッヒスハーヘンを飛び立ち、22日レシフェ、25日リオデジャネイロに到着した。復路は、北米のレイクハーストを経由し、6月22日フリードリッヒスハーヘンに帰り着いた。

この飛行においてツェッペリン社は、両大陸間の郵便輸送を4~5日で配達するとして、多くの国々の郵政当局との間で協定を締結した。展示のカバーには500Rのブラジル切手とともに、ツェッペリン社がブラジル政府容認の下、コンドル社を通して販売したツェッペリン号専用の3種類の切手が貼付されている。

クリチョバ1930/5/22 → レシフェ5/26 → フリードリッヒスハーヘン6/6



裏面コピー45%